

令和三年栃木県支部 紙上俳句大会成績

令和三年七月

染谷秀雄特選

夕蛙留守にする灯をひとつ点け  
若鮎を光とともに放流す  
一灯は身のうちに揺れ魂送り

高橋恵美子  
斎藤 厚子  
伏木 ケイ

染谷秀雄入選

生かされて生きて卒寿や五月晴  
風少しありて華やぐ花水木  
八溝嶺の谷筋深く夕河鹿  
若鮎の反り身の弾く玉滴  
慎ましく生きて悔なし更衣  
軒低き足尾の家並み夏つばめ  
菖蒲湯や九九の得意な子とふたり  
十葉や音のかそけきせせらぎに  
寛解の言葉を胸に薔薇抱く  
街騒を離れて高し夏の月  
てんと牛放ちたる大夏野  
小満の水なみなみと那須疎水  
千年の枯山水を蛇渡る  
あかときの月を背に草引けり  
十葉も庭の一花となりにけり  
能篝点くや火蛾舞ふ橋掛り  
燕の子飛ばば田の上泥の上

栃木 光歩  
星田 一草  
飯塚久美子  
板垣 博史  
酒井 宏子  
石川 定子  
加茂都紀女  
売野 緑  
猪瀬きみ女  
前野 洋子  
高島 文江  
秋葉 節子  
野乃かさね  
黒川しげ子  
熊倉 敬枝  
神山 節子  
田中 思楼

桑原まさ子特選  
木枯や男体山の空の張り  
鶴見一石子特選  
初蛩川の匂ひの風に舞ふ  
大高松竹特選  
粥の腹どこかけだるし栗の花

岡田 雅喜  
細井 悦子  
猪俣治太郎

平手ふじえ特選

笹百合や除染十年経し牧場

岩瀬とき子

蓮實淳夫特選

木枯や男体山の空の張り

岡田 雅喜

落合惑水特選

石灰山の白き妖気や雷きざす

小薮 敏夫

亀田やす子特選

顔真卿の墨のまろやか白南風来

富澤 宏子

木多芙美子特選

麦秋の遮断機ゆるやかに下りる

小林 申忠

五十嵐藤重特選

樹木医の麦藁帽子大きかり

小川 朋久

石川定子特選

足早に晩節きたる青葉木菟

石川 忠文

岩瀬とき子特選

万緑や過疎集落に双子生れ

小川 たか子

岩田裕司特選

清和なる天へ八十路の深呼吸

川匂さちこ

岡田幸子特選

野州路や太くみじかく青く葱

落合 惑水

小川朋久特選

若鮎を光とともに放流す

斎藤 厚子

加茂都紀女特選

日の力借りて竹皮脱ぐ静寂

たなかまさこ

木野泰男特選

一灯は身のうちに揺れ魂送り

伏木 ケイ